

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190200667), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (もえれの家屯田よしお館), 所在地 (札幌市北区屯田7条5丁目2-20), 自己評価作成日 (平成27年8月27日), 評価結果市町村受理日 (平成27年10月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は静かな住宅の中で、街近くに公園に気軽に出入りできる環境にあり車椅子での散歩もしやすい。屯田小学校、近隣中学校の通学路に位置し、札幌では子供の人口が多い地域であることもあり、日常的に楽しい児童たちの声が聞こえる。隣の畑、近所のお庭の野菜や、花を通じて地域の方々と交流する事が出来る、四季を感じて生活が出来ている。理念を重んじ実践につながるよう理念を反映させた年間の目標を毎年作成し、職員の意見や入居者、家族の希望に添えるよう日々取り組んでいる。見学、実習も積極的に受け入れ、学生の学びの場としても地域に開かれた事業所であるよう、毎年、職業体験の場として中学生の受け入れをし、また、将来の福祉の担い手の育成、認知症の方が暮らしやすい地域づくりにも役立てよう努めている。町内会行事やお祭りへの参加を通して地域の中の事業所としての役割をさらに意識していくため努力している。職員の教育にも力をいれ、事業所、職員一人一人の目標を定めて計画的に勉強会を開催し、職員一人一人のレベルや学びたいこと選んでいる事に合わせて外部研修に積極的に参加できるように努め、受講している。資格取得がしやすいように就業環境に配慮、受験者のための講座を開く等している。開所12年目を迎え、入居期間が長く、身体的にも重度化している方も多く、最後まで安心してこれまでの穏やかな生活が継続できるよう、住診医、各主治医と密に連携し、アドバイスを一つ一つ、家族の意向も最大限に活かせるよう、段階的な話し合いを持って方針に合わせたターミナルケアにも取り組んでいる。職員の定着率も高く、入居者と長い年月を共に過ごして、言葉を超えた絆を感じながら日々のケアに当たっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190200667-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年9月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、天気の良い日、散歩で近所の人と挨拶を交わし、菜園で外気浴をしながら野菜の生育を眺め、町内の行事に積極的に参加し地域の中に溶け込んでいる。毎週のドライブでは自然の中で季節の移ろいを感じ、雪まつり、イルミネーション風景、家族とともに歴史館、お菓子の工場の見学などを楽しんでいる。内にあっては、皆で貼り絵の大作に力を合わせ、壁に飾り、出来上がった喜びに浸っている。毎日の楽しみである食事はできる限りのお手伝いに加わり、好みを反映したバラエティに富んだ献立を職員とともに和やかな雰囲気の中で味わっている。年々高齢化し介護度も高まりつつあるが、医療との連携も良く安心して過ごしており、重度化した時もターミナルケアを受けることができています。理念に謳う「地域の中で家庭的な雰囲気のもと、専門スタッフや仲間とともに生活を共にし、健康でより自立したその人らしい生活が継続できるよう」支援を受けて暮らしている。これを支える職員は、勉強会、法人内外の研修会でスキルアップに努め、担当者を決め、時にはチームを作り利用者の支援に当たっている。自己評価のコメントを見てもこれからやりたいことが数多く書かれている。「やっている」との視点からではなく「出来ているか」との視点で高い目標から捉えており、家族へのアンケート調査で「大変良い、大変満足している」との回答が殆どのことからも伺い知ることが出来る。より一層のサービスの向上を目指して更なる発展を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会、申し送り等で基本理念の理解・意識の向上に努め、実践につなげている。	理念を踏まえた年間の目標に向かってユニットごとに具体的な計画を作成し、その実践に努めている。法人として今年度の目標を「理念に立ち返る」を掲げており、研修などでケアサービス向上への反映に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りなど行事・清掃活動への参加、散歩時の挨拶、畑での野菜作りを通じた交流を行っている。	町内会に加入し役員を引き受けるとともに町内の各種行事に参加している。地域住民との日常的な交流、小中学校の行事の見学など地域の一員として地域の人との触れ合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職業体験の受け入れ、利用者の生活の様子、ケアの実践を見てもらい認知症の人への理解や支援の方法を学んでいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や問題点など報告し、出席者の意見を伺い改善サービスの向上に努めている。また町内会の役員の方が出席されているので災害時、行方不明者の発生時の協力を承諾いただいている。	包括支援センター、入所者、家族、消防、職員の参加のもと定期的に開催している。町内緊急連絡網を作成したり、町内会から緊急連絡訓練の提案を受けるなど会議の有効な活用が図られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	アンケートに答えるなど管理者が協力している。生活保護を受けている利用者について、管理者が対応している。	区などの会議出席、アンケート調査への回答、担当者との密な情報交換に努めている。生活保護者を抱えており、担当課との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修、勉強会で充分理解している。玄関の施錠は利用者の安全の為やむを得ない時間のみ行っている。センサー、柵の使用については必要性について適時、話し合いを持ち取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成し、研修、勉強会で理解の上、利用者の安全を図る上での最小限のものにするため家族と話し合いを行っている。言葉による抑制については職員同士お互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修、勉強で学んでいる。声かけの仕方や言葉遣いなどのグレーゾーンには職員各々が注意するところである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者がいるが、職員の中には制度に対する理解ができていない人がいる。今後も研修・勉強会で学び必要時活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している。家族利用者からの不安や疑問点はお聞きし、管理者を通し説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が対応している。家族利用者からの意見要望があったときはお聞きし、管理者に伝えている。	利用者、家族からの話、意見などは毎日の生活記録に目立つように記載している。運営推進会議に利用者、家族が出席しているほか家族会との交流、毎年行うアンケート調査で意向の把握に努め、会議等で検討しながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との面談や会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。	職員会議、朝夕の引継ぎ、日常業務の中で意見を述べやすい雰囲気形成に努めている。個人面談では個別の目標設定、中間フォロー、反省し次の目標設定など職員との意見や提案を引き出す工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	過半数代表者を選出し、就業規則、労働条件等に関する話し合いの場が設けられている。資格取得に関する援助や勉強の機会を設け職員が向上心をもって働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が本人の希望を聞いて研修を割り振りしている。研修の案内を回覧し積極的に参加できようとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した職員は同業者との交流があったが、ほとんどの職員は機会がなかった。研修に参加した際は積極的に交流し情報交換していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子を観察したり、傾聴しながら早期に状況を把握できるよう努めている。話し易い雰囲気を作り安心していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者またはリーダーが対応している。他の職員も内容を把握し信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者との面談話し合いの資料などを基に把握している。入居初期のケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を一緒に行う、たまにはおやつや食事・誕生会には一緒にケーキを頂くなど実施している。時間を掛けてじっくり関わり、相手を深く知ろうとする部分は充分といえない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望等には誠意を持って対応している。家族とあまりかかわりを持っていない職員には今後意識して関わり関係を築いて欲しい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出などができるよう家族に相談するなど積極的に働きかけている。家族、友人の来訪も制限無く受け入れている。ドライブなどでなじみの場所に出かける機会を持っている。	友人、親類、兄弟などの訪問を歓迎し居心地よく過ごせるよう配慮している。日曜日のドライブでは馴染みの場所、興味・関心のある場所に出かけている。馴染みの店への買い物、美容院の利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしの関係を把握し、良い関係が保てるよう、気が合わないもの同士は悪化しないよう都度支援している。孤立しがちな利用者には間を取り持つなどかかわりが途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者・リーダーが家族の相談に乗っている。退去後の関係者に必要な情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや申し送りの際に職員同士話し合い本人の希望、意向の把握に努めている。本人に直接聞く事はほぼできていない。	生活記録には本人の話したことや家族の話なども記載し、本人が話せなくなっても話せた時の情報を引き継いでいる。担当者のみの情報を補うため職員同士が話し合う場で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人・家族より聞き取りを行いファイルし、いつでも見ることができる。入居後の本人家族からの情報は生活記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に注意し把握に努めている。職員同士情報を共有し現状の把握に努めているが力についての把握は充分にできていないところがある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況、家族の要望を確認し3ヶ月に1度見直しを行っている。状況の変化があったときは臨機応変に見直しを行っている。	毎日の詳細な記述のある生活記録から状況を把握、プランを評価し、担当者が原案を作成している。全員の集まるカンファレンスで検討の上、計画作成者が家族からの意向を反映させたプランを作成している。状況変化時は臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡ノート、申し送る時に情報の共有を行っている。気づいた事や工夫は都度話し合い実践に努めている。ケアの実践までは記入しているが結果までの記入は舞い場合があるので見直したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、口腔ケアのサービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商業施設、コンビニ、薬局、美容院、郵便局を利用している。火災訓練には、町内の方々、消防所、消防団に参加していただいている。近くの公園、神社は散歩コースである。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意、納得の上、かかりつけ医や協力医による医療を受けていただいている。認知症の専門医・眼科・整形外科・泌尿器科・脳神経外科などの受診支援を行っている。	協力病院から隔週、内科の訪問診療がある。かかりつけ医の受診には職員が同行し、説明するなど適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族に状況報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問看護師に状況を報告しアドバイスや簡単な処置をお願いしている。医師への相談ごとにも迅速に伝えていただき、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	本人・家族と治療や入院生活、退院の時期についてよく話し合い安心して治療ができるよう支援している。病院関係者に必要な情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者またはリーダーは段階を踏んで家族等、医師も交えた話し合いを持っている。終末期のケアについては職員間で情報を共有し、できる事を話し合い家族の同意の下チームで取り組んでいる。	入所時、「重度化、終末期指針」により説明し同意を得ている。重度化した時は家族、医師を交えて話し合い、看取り同意書を作成している。これまで、幾人もの看取りを行っており、研修受講や看取り経験のもと職員一丸となって支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。不安に感じている職員もいるので全員が慌てず対応できるようにしたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方も参加されて避難訓練を行っている。実際に起こったときに適切な行動ができるか不安を感じている職員もいるので身のついているか確認が必要。	毎月火災訓練の日を設け対応確認するほか、年3回の避難訓練を消防、町内会参加のもと、夜間想定も含め行っている。町内会との緊急時連絡網も整備され、非常時には町内会の人、消防団が駆けつける手筈を整えている。備蓄も確保している。	火災に対する避難訓練を行っているが、更に地震、風水害といった自然災害を想定した対応・訓練を行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないよう気をつけているが、できていない部分もあるので確認が必要。	誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉掛け、対応に職員同士注意し合っている。トイレが居間から見えない配置、個人名を特定できないイニシアルによる情報交換、書類管理にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけを行い、言葉で伝えられない方には、態度・表情で読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どちらかというと、職員の都合を優先している事が多い。希望があるときは柔軟に対応できるよう改善したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望に合わせ美容院、訪問カットを利用していただいている。衣類購入の際本人に選んでもらう事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、食器拭き等を一緒に行っている。畑で取れた野菜を収穫しメニューに取り入れ楽しさを持っていた。	「食べたいね」の会話から好みの物がメニューに取り込まれ、バラエティに富む献立となっている。利用者は出来る範囲の食事作りに参加し、職員とともに和やかに食事をしたり、外食、行事食、屋外での食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合わせ必要な、食事量、水分量を検討し提供している。一人一人の好みに合わせながらも栄養やバランスを考えて検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行えていない入居者がいるが、最低でも就寝前にはできるよう支援している。利用者への声かけ、見守りを行い自分で磨いていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用しパターンを把握しトイレ誘導をしている。また訴えや行動を観察しトイレ誘導を行っている。	なるべく布パンツの使用、トイレの自立を目指し適切な声掛け、誘導支援を行っている。入所時、リハビリパンツやバットを使用していた人が布パンツに変わるなどトイレ排泄への誘導効果が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、オリーブオイルなどの提供、階段昇降などの運動の促しなど一人一人に応じた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば可能な限り添えるようにし、気が進まない時は無理強いないよう支援している。できるかぎり同性介助で行っている。	週3回を基本に、午後の入浴時間帯から、希望と体調により午前も行っている。その日の体調に合わせたシャワー浴、希望に添った同性介助、利用者毎の水の取り換えなど楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入眠状況や、疲労に合わせて休息していただいている。夜間不眠の方には、日中の適度な運動や活動の促し、適切な時間に起床を促す等安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用についての理解は不足している。また誤薬が多いので、マニュアルの見直しを行い間違いが起こらないように努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除などそれぞれの得意とすることを行っている。書道が得意な方には、毎日のメニューを書いていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度の計画ドライブを行っている。一人一人の希望に副った外出はできていない。今後は家族などの協力を得、できるだけ希望が実現できればと思う。	週に一度のドライブでは、自然との触れ合い、イルミネーション、雪まつりなど季節の行事や歴史館、菓子工場見学など多彩な希望や趣味にも応えている。天気の良い日の散歩、菜園を眺めての外気浴など身近に外の空気に触れる機会にも恵まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持したり、使う機会を持っている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったとき、必要時に電話をかけることができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾りつけをしたり、外出時、誕生会の写真を貼るなど楽しめるよう工夫している。	居間、食堂は窓が広く明るく、見晴らしもよく、木の多用が落ち着いた雰囲気を漂わせている。エアコン設置とこまめな管理により程よい空調が保たれており、鉢植え、利用者共同で作り上げた貼り絵の大作などで季節感にあふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの関係に合わせ、テーブル席・ソファ席の配置に配慮している。しかし狭い空間なので、気の合わない方同士が過ごす場面ではストレスやトラブルを避ける為職員が間に入るなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具・調度品・仏壇などを置いていただき、安心して過ごしていただけるよう支援している。自分で花を飾るなど利用者の趣味が活かせるよう支援している。	使い慣れた好みの物を持ち込み、好みに応じた飾り付けを行い、ゆったりと居心地よく過ごせる居室となっている。全室に押入れがあり広く、利便性に富んでいる。清掃は、毎日職員の支援の下に行われており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは表示・スポットライトで分かりやすくしている。		